



【第4弾】

認知症まちづくり事後評価 地域円卓会議

認知症と共生する社会とは一体なんなのか？
当事者の多様なニーズに寄り添うために、これから地域や専門職などの
各セクターはどう協働し、地域づくりを担っていくべきか考える

実施報告書

日 時： 2025 年 1 月 31 日（金）17:30-20:30（受付開始 17:00-）
場 所： 沖縄県総合福祉センター 501 会議室（沖縄県那覇市首里石嶺町 4 丁目 373-1）
主 催： 沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】【第4弾】認知症まちづくり事後評価地域円卓会議



■日 時：2025年1月31日（金）17:30-20:30
■場 所：沖縄県総合福祉センター 501 会議室
■着席者数：10 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：15 名（NPO・市民活動団体、その他）

■主 催：沖縄認知症見守りコンソーシアム（公益財団
法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄
県地域振興協会）
■協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

伊波 晋（公益財団法人みらいファンド沖縄プログラムオフィサー）

松田 可奈子（公益財団法人みらいファンド沖縄プログラムオフィサー）

認知症と共生する社会とは一体なんなのか？当事者の多様なニーズに寄り添うために、
これから地域や専門職などの各セクターはどう協働し、地域づくりを担っていくべきか考える

休眠預金を活用した「認知症まちづくり事業」は最終年度を迎えました。私たちはこれまで、福祉の専門家ではない市民コミュニティ財団だから貢献できることは何だろうと自問しながら、実行団体とともに活動し、多くの方々と対話を重ねてきました。たとえ認知症になったからといって、これまでの日常生活を変えることなく、自分らしく生き続けられる社会に近づくために、私たちは一体何ができるのでしょうか？折しも、閣議決定された「認知症施策推進基本計画」には、認知症のひとと家族等が、行政や地域・企業などの多様な主体とともに、認知症バリアフリー化を推進することが発表され、沖縄県においても、官民連携体制が模索されています。

今回の地域円卓会議では、当事者の多様なニーズに寄り添い、地域や専門職などの各セクターのこれからの役割について改めて考え、認知症まちづくり事業における3年間の成果と課題を振り返ります。

センターメンバー



伊波 晋
公益財団法人
みらい
ファンド沖縄
プログラム
オフィサー



松田 可奈子
公益財団法人
みらい
ファンド沖縄
プログラム
オフィサー



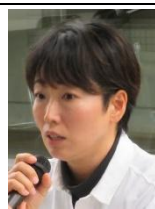
阿波連 愛香
特定非営利
活動法人
グランアーク



儀間 優紀
浦添市地域
包括支援
センター
さっとん
管理者



田中 将太
琉球大学
人文社会学部
人間社会学科
准教授



照屋 望
株式会社いき
がいクリエー
ション
いきがい地域
包括ケアシ
ステム推進委員
委員長



石川 直希
沖縄県保健
医療介護部
地域包括ケア
推進課
地域包括ケア
推進班



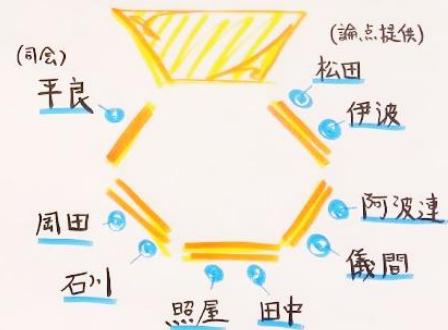
岡田 太造
一般財団法人
日本民間公益
活動連携機構
JANPIA
専務理事

認知症まちづくり 事後評価 地域円卓会議

2025.1.31(金)

17:30 ~ 20:30

④ 沖縄県総合福祉センター 501会議室



認知症と共生する社会とは
一体なんなのか？ 当事者の
多様なニーズに寄り添うために、
これから地域や専門職などの
各セクターは、どう協働し、地域
づくりを担っていくべきか考える

主催 沖縄認知症見守りコンソーシアム
(公益財団法人みらいファンド沖縄、
公益社団法人沖縄県地域振興協会)
協力 NPO法人 まちなか研究所やぐわく

論点提供

伊波晋 みらいファンド沖縄 松田可奈子 みらいファンド沖縄

認知症の方々も安心・安全な
外出と担保できるまちづくり事業

休眠預金と活用 最終年度

2024/12 「認知症施策推進基本計画」
固まり決定

3年間の成果と課題を
ふりかえる

5 実行団体

- ② 地域づくり事業
- ① 基盤整備

- NPO法人 グランワーク
- 合同会社 Greenstar Okinawa
- 社会福祉法人 西原町社会福祉協議会
- 社会福祉法人 南風原町社会福祉協議会
- 医療法人 つかへん会

ミマモライドの敷設

親 9 (16) 子 165 (290)

タグ 21

3年間の
学び

対話の実践とうちあた

本居コミュニティ
財団だから
できることは？

本人
中心
主義

水平
関係

社会課題
解決

たとえば「認知症」になったからと
いて、これまでの日常生活を
変えることなく、自分らしく
生き続けられる社会へ

歩いて行ける居場所
誰もが歩いて行ける

若年性認知症
「働く、その一歩前」

写真展「つづき」

ちみでカフェ
啓発活動

遊園地
みんなで決める

変化
成果

本人を中心とした
「つながり」の可視化と
個別ケアが実現し、
「おでかけ」の権利が
認知され、より
地域の安心安全度
が高まっている状態

私たちは何が
できるか？
役割は？

阿波連 愛香さん

NPO法人アライズ・フ

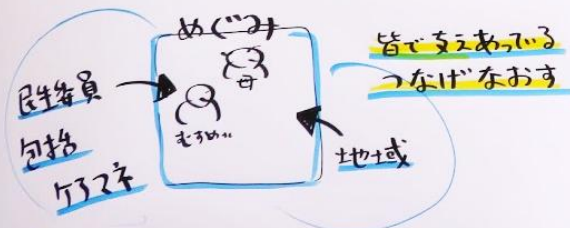
本人の安心、家族の安心を、

R5.5月 地域サロン開所
首里儀保町

地域のみなでつくる健康長寿カン
ゆんたくばあめぐみ

月〜木
9時半〜17時半

- ① 認知症につながる
社会的リスクの予防
- ② 認知症になっても安心、
安全に暮らし、
外出もできる地域づくり、
居場所づくり



儀間 優紀さん

浦添市地域包括支援センター さっとん

浦添中学校区

支援者がつながる

横断的・総合的な
相談支援体制づくり

地域力の強化
「他人事」ではなく「我が事」と考える
地域づくり

うららっぽ
わくわく駅伝

当事者・支援者
ごちゃまぜで走る
楽しく!

わ二層協議体
わくわくワークショップ

ちょーじか
ゆいま〜る市場

食 健康 遊 歌
ネタいっぱい!

共有 ▶ 共感
協働 ▶ 協創

田中将太 先生

琉球大学 人文社会学部 人間社会学科 准教授

ケ了 生きている人 ~~ではなく~~ 生活している人
「共生社会の実現と推進のため」

認知症基本法

認知症は病気と
オープンにすることで
すら勇気が必要

偏見
があるから

公的
スティグマ

本人

セルフ
スティグマ

本人

連合的
スティグマ

本人

「知らない人々」における公的スティグマは、

「認知症当事者・家族」に影響し、増幅される
→医療・社会的サポートを受けること消極的に

照屋 望さん

株式会社いきがいのクリエーション

全ての人が「いきがいと共に歩む」ために
いきがい (生き・居き・行き・治き・遊き)
によりそい、考えつづける

いきがいの地域包括ケアシステム推進委員

おバテが
スリーホルダー

面として
キノウサ

皆が社会参加
できる場 多彩に

プロジェクト6
在宅ホスピス
まちの保健室

G0プロジェクト
医療的ケア受
マンション・クリニック
児童デイ

認知症スティグマの
低減方法

- 正しい理解
- 交流体験
- 新しい認知症観

認知症
バリアフリー
社会の実現

(早期発見・治療の遅延)

サブセッション

顔の見える
関係

いやな言い方あったとき

自分がケツされる
ことになったら

気づかせる

地域について
地域課題
自己実現

いろんな人を
まきこんでいく

あすかき

高齢化
参加者不足

地域の人って誰?

役割があると考がでる

でもない人に参加してほしい

じみちな
対話

あせない
着実に

福祉セクターで包括 ⑤

社協入っている
民衆連

そこでの協働

セクター同士で
まとめてできないか

できること
再発見

活やくの場へ
つなぐ

石川直希 さん
沖縄県 地域包括ケア推進課

- 認知症推計人数
- 軽度認知障害(MCI)推計人数
- 新しい認知症観
- 重点目標……3つの指標(国)
- 沖縄県認知症希望大使 3名 講話イベント

本人のお話をきく、啓発

- 認知症バリアフリー社会推進事業

県民向け 専門職向け

官民連携 シンポ 広報媒体 作成

- 高齢者の生活課題の解決に向けた
官民連携ワーキンググループ R6~

- ✓いろいろなセクターの参加をうながしている
- ✓実現のための財源(課題)

岡田太造 さん ⑥
一般財団法人日本民間公益活動連携機構 JANPIA

審議会 → とりまとめ → 法へ { 内閣法制局
障がいの参考 由り決定
社会モデル → 基本法 → 個別法
理念 → 現場へしんとう
皆が理解できるかどうか

制度のはざま? ⇒ 当事者中心
支援・被支援者
休眠預金のよさ のりこえる

専門でない市民コミニティ財団だからできること

共生社会へ
むかっていく

「高齢者だけ」
とか言っている場合
じゃない

お互い学んで
いかないと

子どもへ
福祉教育

行政へ言いつづ
けてきた

「なんで浦添市には
ミマラウが
ないんですか？」

事業継続
制度外で
どこと協働か
支えたら

支えるしくみを
いっしょに考えて
ほしい (行政)

評価軸を
もさくしながら

制度の解釈

国はさっしやうに
つくっている

向てせばめられている

いっしょに解釈する場
当事者も含めて

松田

自分ごととして考えるテーマとして強か

スティグマ 強い

ステークホルダー たくさん

社会参画

マルチステークホルダー の肉をうめる存在

伊波

MFO がこれからどうするか

アウトカム指標できたことよかった (県)

→ 評価方法ある

→ はかれないものをはかろうとするからむずかしい
理解すればいい

すごいまきこみしているが、リリースしてまだ足りない

地道な対話をしながらつくりあげている

理念のないうイデアはこわい → 文対話の場づくり

平良

共有と言評価をオープンな場で

ビジネス化する、民間がイデア

制度のはざま → 関係性、水、対象をマルチに

MFO コミット
できる

場はある

予算がある

うまくつかえてない

市町村
県
で

■今後のアプローチの方向性（提案）

1) 認知症共生社会の方向性

これまで、家族と当事者、そして専門職で支えてきた認知症への対応を、地域住民や地域企業が参画することで、当事者の見守られ方に対する多様なニーズに応える取り組みが発露する地域にしていきたい。

2) 認知症共生社会の実現にあたっての価値観

制度の枠組みではなく、人と人との関係性に重点を置くことで、上下関係ではなく対等で水平なつながり、また、単一の世代に限らず、多世代かつ他業種が関わることが大切。

3) 認知症共生社会を実現するための土壌作り

様々な、地域住民や民間の取り組みを事業化するには、前段の価値観を体現した地域拠点やイベント等の「接続」の場が必要で、ここが理念や実態の共有や事業評価の場になって行くと考えられる。ここでは多くのステークホルダーが参加した、質の高い対話の場をつくることが不可欠であり、みらいファンド沖縄にはこの役割が期待されている。

■参加者によるサブセッション

認知症と共生する社会とは一体なんなのか？当事者の多様なニーズに寄り添うために、これから地域や専門職などの各セクターはどう協働し、地域づくりを担っていくべきか考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 当事者家族として論点提供
- ・ 顔の見える支援・関係性
- ・ 地域とつながる
- ・ 安心して外出、個人としても出来る
- ・ 仕事としてのあり方、家族としてのあり方
- ・ やってみる感じが大事
- ・ 扱われたいように扱っている
- ・ いい事例を聞いた
- ・ スティグマ、本人のスティグマ
- ・ 関わる中で暴言とか出てくる人もいる
- ・ 「言われたら嫌だよ」と伝える⇒はっとする人もいる
- ・ 人間同士の関係＝本音を言える関係
- ・ 認知症、遠慮する
- ・ 対応のふりかえりフォロー
- ・ 全員で共有
- ・ 毎朝ミーティングで共有
- ・ 認知症になったら
- ・ 社協
- ・ 地域福祉から
- ・ 全世代
- ・ 33 自治会

②

- ・ 地域見守りたい：
入口 知念商店（首里・宜保）
- ・ 地域のつながり（地域の情報が井戸端会議として出てくる）



必要な支援につながる



出口 包括・グランアーク

③

- ・ 昔、祖父が認知症だったことを久しぶりに思い出した
- ・ スティグマの話をきいて、家族がとても悲しんだ



金城さんの講演会の話に

- ・ 「自分のいないところで物事を決められるのか嫌だ」ということを講演会できいて良い状況になった
- ・ 正しい知識を得ること。実体験大切
- ・ チェックリストをご夫婦で楽しくやっている
- ・ 楽しく備える
「私が認知症になったら手をつないでね」

④

- ・ 地域づくり
- ・ 地域課題に取り組むのと地域づくり
- ・ 自治型と地域課題
自己実現（趣味）
- ・ やりたいことを開く
- ・ 色んな人を巻き込む、協働、対話
- ・ むずかしい
- ・ 高齢化→平日参加できない
- ・ 認知症もいるが参加者が増えない
- ・ 地域の人って誰？



役割がないと居づらい

役割があると参加できそう



役割ない人に参加してほしい

認知症のくくりはいらない
国民ではなく居住

⑤

- ・ NPO 子育て世代サポート 居場所
- ・ 啓発中心 成果ってどう表現するの、、、
- ・ 共生社会の実現は道のり長い
- ・ 行政との連携目指す
- ・ 全部を知る必要ないよね
- ・ 知っている物同士が歩み寄れる「呼ぶ」
- ・ 「教育」柱

↓

予防というメッセージ
負の学習に、、、

↓

反省から当事者の悟り、出会いの場好評！

- ・ メイドきっさ 65～78
- ・ 月1回 グリーフケア まぼろし 若い子
- ・ 市民だからこそその発送 自由
- ・ 制度の限界を知る
- ・ 両輪 大切
- ・ 自然と振れる ケイハツされる

||

ゴチャマゼ

⑥

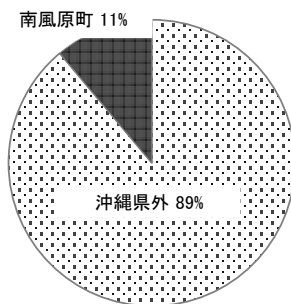
- ・ 良い土壌づくり、種まき、花を咲かす
- ・ ホームビデオ上映会
- ・ 地域の歴史をみんなでふり返る

【第4弾】認知症まちづくり事後評価地域円卓会議 参加者アンケート集計

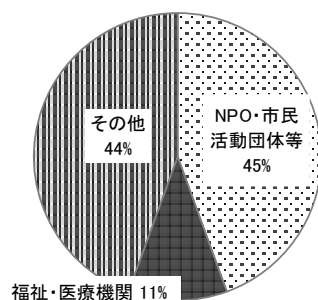
◆概要

- ・ 日時：2025年1月31日（金）17:30 - 20:30
- ・ 場所：沖縄県総合福祉センター 501 会議室
- ・ 着席者：10 名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・ 参加者：15 名（NPO・市民活動団体、その他）
(アンケート回収 9 名、回収率 60%)

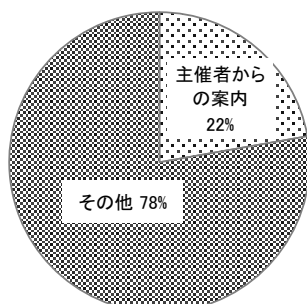
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.9（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
8 名	1 名	0 名	0 名	0 名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 着席者の方々のお話が多岐にわたり、実例もあり、サブセッションの時間も学びが多かったです。
- ・ 自分の団体でも生かすことのできる気づきが得られました。
- ・ 地域円卓会議のしくみを生で見ることができた。
- ・ 現場の皆さんが取り組んでいることがよく分かって楽しかったです。
- ・ 実際の円卓会議を見ることができた。サブセッションで他の人と意見交換できた。もう少し話す時間ほしかったですが、足りなりくらいが丁度よいのでしょうか、...
- ・ 円卓会議で行われていること、雰囲気がよくわかりました。
- ・ 認知症スティグマは、他の課題においても言えそう（母子家庭、障がい）で、どうスティグマを取り除いていくかのアプローチが参考になりました。
- ・ いろいろな立場の方の活動やお考えを知れた。

（4. 概ね満足）

- ・ 時間が足りなかった。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ ミマモライド。

- ・ 共生社会の実現を推進するための、、、。
- ・ ステイグマの解消。
- ・ 認知症や高齢になってもよく生きる。本人主義であることの大切さ。これは様々な分野で言えることだと思っています。
- ・ ミマモライドがうちの地域にもほしい。どのしくみも考え方も大変勉強になりました。
- ・ 専門家となり市民コミュニティ財団のできるこ。当事者中心。水平関係。
- ・ 休眠の実行団体は制度の狭間をうめるのではなく、当事者の声をきく、中心におく、支援者・非支援者の関係を越えようとしているという話は新しい視点で自分たちも意識したい点でした。
- ・ 「認知症」は、社会課題を自分ごと化する強力な話題だった。
- ・ うちあたい。
- ・ 制度の解釈をみんなで一緒にやってみる会の実施。
- ・ 制度をどう理解するか。消極的に消化するのではなく。

(写真) 会場の様子



当事者家族との論文提供
希望の星をまかせ・関係性
 土曜日の夜に
 せむしに外出。1回として決まると
 仕事にはあきらみ、家族に任せよう

いはい
 かつおの感じが大事
 かわたしは11月に本屋に
 11月15日を期した

～ていへず、本人のスタイル、
 かかたる中、15日を期して2人きり
 「おもしろい本屋」をみつけると、おもしろい
 人間関係の発見も本書にもある関係
 もあるはず、おもしろい
 土曜日の夜に、7時

全員で共有
 各々のミニセッションで共有

話を聴くには
 社協
 地域福祉から
 全世代
 30分間 餅会

新がたから来た

グラフ

(いきなり)

地域見守り隊：¹⁰和会商店(首里ぎぼ)

地域の { 地域の情報から井戸端会議として
 つなぐ。 } 出さる
 ↓
 必要な支援、1に7000
 ↓
 出さる
 出さる、グラフ。

● 昔、祖父が「認知症」を
 ことを久し振りに思い出した。

● スライダの話をきいて、
~~昔から家族の~~
 家族が、とても悲しい
 ...
 ↓
 全世代の講演会をきいて

○ 「自分のいいたいところを
 沢山の人の前で」きいて
 ことを講演会できいて
 思い次々になる。

○ 正しい知識を得ること。
 実体験が大切。

○ チェックリストを「天幕で」
 書いたり、きいたり。

○ 書いたり、きいたり。
 「和会」認知症をきいて
 4とつながるね。

地域づくり.

・地域課題に取り組む
地域づくり.

・自治型と地域課題
自己実現(趣味).

・やりたいことをやる.

・色んな人を巻き込む.

・むしろいい.

協働
おもしろ

高齢化 → 平日 - 参加できない

認知症もいる → 参加者が
増えない

「地域の人って誰？」

↓
役割がないと居づらい

役割があると参加できる

↓
役割がない人は参加
してほい!!

認知症はくりはいいらない
国民 どのよう居住

元気みらい基金

NPO 3青2世代サポート 居場所

南風原社協

ハイパツ中心 成果、どう表現する...

共生社会の実現は道の長い

ナ、市議会関係.

行政との連携 目指す.

全世代知必要かな.

知ってる人同士の歩み寄りが呼ぶ!!

×1ドミ、5.65~78.

月1回 相3L.
グリーフア 共3

市公僕にその発想!!
自由.

制度の境界を越える

正輪大切.

自然と触れ合
ハイパツ中心

「教育」桂
↓
子供という
X、セージ
負の学習に...

「ゴチャマセ」

互の、当事者の語り の最 好評!
生々!!

良い土壌づくり、種まき、花を咲かす

ホームビデオ上映会

地域の歴史をみんなで見返る